

2. 2017 年度 ホスピス緩和ケア週間

安部奈津子 永谷貴美

(日本ホスピス緩和ケア協会 事務局)

日本ホスピス緩和ケア協会では、「世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice and Palliative Care Day)」を最終日とした1週間 (2017年度は10月8～14日)を「ホスピス緩和ケア週間」とし、ポスターの掲示およびセミナーや見学会の実施などを通して、緩和ケアの啓発普及活動に取り組んでいる。

第12回目を迎えた本年もポスター・チラシ (図1)を作成した。当協会の会員をはじめ、がん診療連携拠点病院、日本緩和医療学会会員、日本死の臨床研究会会員など、全国の関係者に案内して緩和ケアの普及啓発を目的としたプログラムの開催を呼びかけたところ、138施設より企画登録があった (図2)。

企画内容としては、講演会、パネル展示などを通して緩和ケアの知識を提供するもの、相談コーナー、茶話会など話すことと聞くことに重きを置いたもの、またコンサートや演劇などを楽しみながら緩和ケアへの理解を深めてもらうものなど、

合計274の企画が寄せられた (表1)。今年度は、「Voices for Hospices」(ホスピス緩和ケアの普及を目指して歌声で世界を結ぶチャリティー運動)の開催年でもあり、コンサートを行った施設が例年より多くみられた。また、病院と在宅の連携やサポート体制について紹介する企画や、アドバンス・ケア・プランニング、終活といった、人生の最終段階について考える企画なども開催された。企画への参加者の内訳は表1に示す通りで、市民や医療福祉関係者など7,300名あまりの参加があった (展示会の参加者は含まず)。

企画を実施した施設からは、「近隣施設の緩和ケアへの関心の高さを感じ、改めて地域連携の重要性を確信した」「地域住民に向けての普及活動の足がかりにしていきたい」などの報告が寄せられた (図3)。

2018年度の世界ホスピス緩和ケアデーは、10月13日となっており、10月7～13日をホスピス緩和ケア週間として実施を予定している。



図1 2017年度ポスター (チラシも同デザイン)

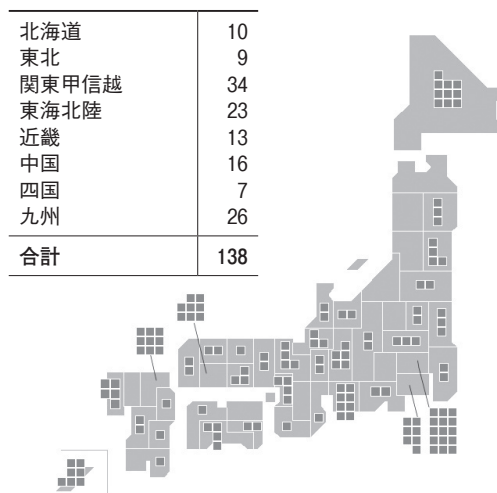


図2 各地域の企画登録状況

表 1 企画内容と参加者内訳

参加施設種別	企画内容 ※1つの登録企画内で複数の企画開催有	参加者内訳
1. 協会会員 95 (内 拠点病院 32) 緩和ケア病棟 77 緩和ケアチーム 5 一般病院 7 診療所 2 準会員・賛助会員 4	①一般市民向けの講演会等 51 ②医療従事者向けの研究会等 10 ③コンサート・演劇等 37 ④緩和ケア関連のパネル展示 43 ⑤相談コーナーの設置 35 ⑥チラシ・パンフレットの配布 17 ⑦緩和ケア病棟見学会 25 ⑧体験・試食コーナー等の設置 29 ⑨作品展・写真展 6 ⑩茶話会・カフェ 8 ⑪DVD・動画の上映 8 ⑫遺族会・懇親会等 5	一般市民／患者(入院・外来)／家族／遺族／医師／看護師／看護助手／薬剤師／臨床心理士／ソーシャルワーカー／カウンセラー／理学療法士／作業療法士／言語聴覚士／放射線技師／臨床工学士／管理栄養士／歯科衛生士／音楽療法士／ケアマネジャー／保健師／介護福祉士／事務員／チャプレン／ボランティア／医学生・看護学生・薬学生／その他
2. 非会員 43 がん診療連携拠点病院 6 日本緩和医療学会会員 16 学会会員＋拠点病院 10 学会会員＋研究会会員* 2 拠点病院＋学会＋研究会会員 4 不明(無記入) 5		
合 計 138 (*研究会:日本死の臨床研究会)	合 計 274	合計 7,349 (展示会来場者は含まず)



▲市民対象の講演会
(北海道：札幌南徳洲会病院)



▲ヨガ体験
(宮城県：東北労災病院)



▲緩和ケア病棟見学会
(東京都：がん研究会有明病院)



▲看護師による寸劇
(富山県：富山県緩和ケア認定看護師会 砺波支部会)



▲ハレルヤ合唱
(愛知県：豊橋・生と死を考える会)



▲出張緩和ケア講座
(兵庫県：尼崎医療生協病院)



▲メディカルカフェ
(島根県：松江市立病院)



▲コンサート
(徳島県：ホスピス徳島がん基金／近藤内科病院)



▲パネル展示
(長崎県：南野病院)

図 3 催し物の実際 (一部紹介)